

アフガニスタン仏教遺跡の壁画修復

東京芸術大学・大学院・教授 **木島隆康**

科学研究費助成事業(科研費)

新たなアフガニスタン壁画保存の展開 -高松塚・キトラ古墳を遡る保存と修復-
(2007-2009 基盤研究(B))



修復前の壁画片。盗掘によってはぎ取られた状態。支持体が土でできているため、壁からはがされた壁画は、もろくてこわれやすい。修復によって支持体を強化し、展示可能な額装形態にする必要がある。

アフガニスタンの仏教遺跡であるバーミヤンやフォーラディでは、盗掘などにより壁画がはぎ取られ、国外に流出。

古美術品として取引されていた壁画の破片など約30件を救出し、3年がかりで調査と修復。

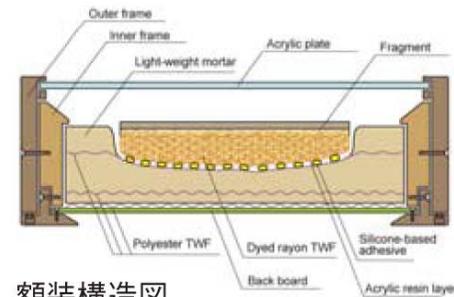
調査結果から復元模写を行い両遺跡の絵画技法・絵画材料の検証。
修復では、脆弱な壁画の適切な修復処置と額装形態を提示。



分析調査結果にもとづいた、復元模写による絵画技法・絵画材料の検証。

東京芸術大学陳列館で、壁画の修復成果を紹介する「アフガニスタン 流出仏教壁画片の修復展」を平成23年6月29日から7月10日まで開催。東京国立博物館で、「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護展」(平成23年1月18日から3月6日まで)に展示。将来は、修復した壁画片の故国への返還を目指す。

2009 文化財保存修復学会「業績賞」受賞



修復処置が完了し、展示可能な額装にする。